

みんなで創る栄養の未来、読者参加型実践マガジン

# ヘルスケア・レストラン

2019

6  
JUN.

「特集」嚥下調整食の確度を高めよう

## 成果につなげる 食べる口の見方

埼玉石心会病院 (埼玉県狭山市)



盛岡友愛病院 (岩手県盛岡市)

根拠ある栄養管理で  
治療へ貢献



飯塚病院 (福岡県飯塚市)

病棟で求められる  
自分の役割を全うしたい



湘南長寿園病院 (神奈川県藤沢市)

患者の要望を汲んだ  
栄養プランを提案する



# 「かかりつけ管理栄養士」の存在意義を さまざまな角度から考える

4月6日(土)、大阪市内にて「管理栄養士と開業医がコラボする会」のキックオフセミナーが開かれた。開業医と管理栄養士が協働できる仕組みづくりに向けた地域独自の試みがスタートしている。



↑管理栄養士を雇用している診療所の院長らによる事例報告に参加者は熱心に耳を傾けた



↑発起人の井尻吉信氏(右)と松若良介氏



↑講師と参加者とのフリーディスカッションでは、雇用形態や人件費などに関する質問が飛び交った



↑ムーブメントを起こすべく開業医、管理栄養士ら50人が集結した

## 無床診療所における 管理栄養士の雇用促進へ

管理栄養士で大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科准教授の井尻吉信氏と、医療法人松若医院長の松若良介氏が発起人を務

める「管理栄養士と開業医がコラボする会」のキックオフセミナーが4月6日(土)に大阪市内で開催され、関西エリアの開業医、管理栄養士ら約50人が参加した。

井尻氏は約11年前から大学に勤務する傍ら、大阪府阪南市の松若医院で非常勤の管理栄養士として患者の栄養食事指導や地域住民向けの健康増進イベントの企画・運営などに携わり、栄養管理の側面から地域の人々の病態改善や重症化予防の一翼を担ってきた。

2015年に井尻氏が大阪樟蔭女子大学の拠点である東大阪市周辺の内科を標榜する無床診療所(207施設を対象に行った調査)によると、管理栄養士による栄養食事指導が実施されていたのはわずか8%。治療の一環としての栄養食事指導に対する患者ニーズが高まっているにもかかわらず、多くの無床診療所では人件費などの費用対効果の観点から管理栄養士の雇用が進んでいないのが現状だ。

一方、16年度診療報酬改定では「対象者の範囲拡大」「診療報酬が倍増」となったことは、診療所で

の管理栄養士雇用の「追い風」になると期待されている。

こうしたなか両氏は、栄養食事指導がもたらす診療の質の向上と、安定した診療所経営の両立を図るためにも、「かかりつけ管理栄養士」の存在意義を開業医に向けて広く発信していく必要性があると考え、同会発足の運びとなった。

キックオフセミナー当日は、実際に管理栄養士を雇用している3診療所の院長らが人件費に対する考え方も含め、雇用形態の具体例についてそれぞれ報告した。管理栄養士を栄養管理業務だけでなく、受付や診療補助、運動指導といったほかの業務と兼任させることで、患者とのコミュニケーションの機会が増え、手厚いフォローから治療効果の向上につながった事例などが紹介された。

井尻氏は「この会を通じて管理栄養士が医療分野で活躍できる機会を増やすとともに、必要な知識が習得できる学びの場もつくっていききたい」、松若氏は「双方が『win-win』の関係を構築できる仕組みを皆で考えていきたい」と、それぞれが力強く述べた。